二〇一八年五月四日

薫風に紙飛行機の宙返り　智恵子
翠黛のくつきりと見ゆ立夏かな　ぽんこ
山路いまここだ石楠花浄土かな　よし女
筍を抱くおくるみの嬰のごと　うつぎ

二〇一八年五月三日

一渓に縺れほぐれつ鯉のぼり　明日香
禅寺へ道まつすぐや青楓　もとこ

二〇一八年五月二日

鉾杉のてつぺんを指呼懸藤　三刀
足弱の母エスコート薫風裡　せいじ

二〇一八年五月一日

落慶の五色幕張る清和かな　なつき
春風が吹き抜けて行く三間つづき　菜々
自販機に礼を言はれてうそ寒し　よう子

二〇一八年四月三〇日

夕日いま金の道描く春の海　明日香
小刀で削る鉛筆昭和の日　うつぎ
姿見にと見かう見して衣更　たか子
春満月揚ぐ生駒嶺の影法師　せいじ

二〇一八年四月二九日

藷蔓を挿して一息昭和の日　三刀
稚児化粧のこる兄妹水遊び　なつき
目の手術癒えうち仰ぐ五月晴　たか子
唄ふごと法会の読経春風裡　菜々

二〇一八年四月二八日

だぶだぶの学生服に山笑ふ　敬和
国宝の塔を要に緑立つ　はく子
吟行の余録の蓬摘みにけり　よう子

毎日句会みのる選・二〇一八年五月六日